



friendship force
WESTERN TOKYO

2015年(平成27年)12月

第22号

1

Region do Quebec & NE Ohio 渡航特集



ケベック・モンローラ公園のカトリック教会の前で

ケベッククラブ、NEオハイオクラブ渡航を終えて

ED 高垣 孝

2015年7月3日から10日まで、カナダのケベック州ケベックシティにあるケベッククラブへ渡航、10日から13日まで、米国オハイオ州クリーブランドにあるNEオハイオクラブを短期ながらストップオーバー渡航してきました。出発直前に1人体調不良でキャンセルが出たり、トロント空港で乗り継ぎ便に間に合わず1泊するなどのハプニングがあり、不安のスタートとなりました。しかし、その不安は先方クラブの熱い歓迎ぶりと毎日の好天で払拭され、充実したプログラムやツアーで、楽しい思い出と実りある交換が実現できたかと思えます。ケベック州は公用語であるフランス語を話す人が8割、英語その他が2割。従ってケベッククラブの中には英語を理解できない、もしくはたどたどしい人が何人かいましたが、陽気な性格とユーモアのある人が多く、コミュニケーション上はほとんど問題なし。最終日のパーティ席上で、2017年西東京クラブ渡航に招待したい旨を発表したところ大歓声上がり、本当に来てよかったと思えました。(集合写真は初日にマッチングしたMont-Laura公園にて)

一方、NEオハイオクラブはリターン渡航という気安さもあり、なつかしい方々との再会を楽しみました。こちらも第九の野外コンサートを始め、各種ツアー、野球観戦等、3日間だけでしたが米国文化・芸術を楽しみ、特に電気を全く使わないAmishの生活に感銘を受けました。ストップオーバー交換は初めてでしたがやや慌ただしかったので、フル交換とまでは行かなくてももう1~2日欲しいところでした。今回山梨クラブの鈴木さん親子にはケベック渡航に特別参加していただき、写真撮影では大変お世話になりました。またサブED菅沼さんのサポートにも感謝します。

ヘラジカ牧場見学

永田末子

1日遅れでケベックに到着。ピクニックランチの後ヘラジカ繁殖牧場を見学しました。馬と見間違ふような大きなヘラジカ、ケベックの人たちはワピチというそうです。夏は四輪駆動で、冬はそりで狩りをしています。いろいろな説明をフランス語でして、それを英訳してくれるのですが私の英語力ではほぼ理解は不可能…。暑さもあって蚊がとても多く、ホストファミリーの人たちが虫よけスプレーや痒み止めを塗ってくれて、私たちにいろいろと気を遣ってくれました。心遣い、優しさ、いい交流が始まりそうな予感しました。



七夕にサンタとマリア 高石美保子

7日夜は山崎さんのホスト、マルセラが自宅のクリスマスパーティに招待してくれました。アンバサダーとしては菅沼、松塚、工藤、宇梶さんと私。そしてそのホスト達、また友人がお手伝いに来ていました。七夕ではなくクリスマスパーティ?と思いましたが、天井のキャンドルライトからは赤と緑のボールが下がり、部屋のあちこちにクリスマスの飾りが施されています。笑いヨガのインストラクターでもあるマルセラは初対面の二人一組でお互いに笑いを起させ、場の雰囲気を一変させました。メインはサンタに扮したアンドレとマリアに扮したリブからプレゼントをいただいたこと!!



Levis Forts

鳥居典子

Quebecホームステイ2日目、Levis Fortsを訪れました。セントローレンス川の南岸に位置し、19世紀後半アメリカの圧力からケベックを守る為に、イギリス人によって建造された要塞です。

写真にある城壁の上からアメリカ軍が迫ってきたという対岸を眺め、ガイドの指導のもと、我々日本人の中から3人がボランティアとして大砲の準備体験をしました。ケベックシティの戦いの歴史の一端に想いをはせることが出来ました。



サンダンヌ溪谷に挑む 市川良美

日光の華厳の滝と竜頭の滝を一つにしたようなスケールの大きい瀑布でした。そのしぶきの中に果敢に挑んだLouis(加藤・虫明さんのホスト)のロープ渡りに、一同目を見張りました。

自然もダイナミックならばそこで暮らす人々も又チャレンジ精神が旺盛で、井の中の蛙の私には雄大な世界を実感する良い機会となりました。



私のホストファミリー 工藤澄子

ケベックに来るとホスト・ファミリーが3人に増え嬉しい驚き。日中は78歳のパワフルなリブの車に乗り、帰宅するのは物静かな元弁護士夫妻宅で、私と4人でにぎやかにバーベキュー。カナダの大自然に時間が止まります。英語を話すリブ、少し話すリサは夫のカミレにフランス語で、私の英語も時々おかしくなりましたが、日本を知りたい3人にうまく伝わったかな？寝るのはいつも12時、フランス語圏でのんびりした英語が仲介してくれる幸せな時間。2年後日本に来たいとの満面の笑みに、私もしっかり握手しました。メープルシロップも堪能しカナダが体の一部になったみたいです。写真は左からカミレ、リサ、リブ、工藤。



ホストとの思い出 今村佐知子

ホストのディアンヌとジャンギは2年前モントリオールの自宅を売り、ケベックのアパートで借家住まいを始めました。家賃は水道代込みで68500円、電気代は月平均6800円。貯金を好きな旅行に使いたいとの思いからです。築3年のアパートは30坪位の広さで2ベッドルーム。我が家と同じ広さでステイを身近に感じました。受け入れが初めてという2人は誠意を込めてもてなしてくれ、目眩がして予定をキャンセルした時、「心配で涙が出たわ」とディアンヌは私を抱きしめ、「でも私達も休めて良かったのよ」との気づかいの言葉も。再婚同士の子は今でも仲が良く、壁には18年前の結婚式の写真が貼ってありました。2年後の再会が待ち遠しい。



西東京渡航に参加して

エリザベス女王を元首として頂くカナダでは唯一、フランス語で議が開かれているケベック。イマージョン教育という、各教科を外国語で教える教授法の発祥地としても有名なこの地に、言語学者の端くれを自負する私は、興味津々で降り立ちました。なぜか降り立った時は娘と二人きりでしたが、ホストは高校でフランス語を教えていたJean-guyさん。英語を話すのは毎年FFの交換の時だけという彼と、主に朝食を食べながらケベックの言語事情についていろいろ話を聞くことができました。フランス語を守り続けることにプライドを持ちながら、ビジネスや観光の面ではやはり、英語を使えなければ収入の高い仕事に就けないという現実は、日本の姿と重なります。EDの娘さんがたまたま英語教師だったが、自分の子どもとはできるだけ英語で話すようにしているという。私の娘・万里奈はフランス語の練習をしたいと、あえてDeniseという一人暮らしの女性宅にステイ。夕食に招かれた時には、スモウのコスプレをしてくれる愉快的な女性でした。



鈴木克義—山梨富士

Amish Country訪問

7月11日各ホストの引率で、移民当時の生活様式を保持し、自給自足の生活を営む宗教集団アーミッシュの見学に行きました。原則として現代の技術による機器の導入を拒み、電気の使用や撮影を嫌うので写真がありません。土産品のアーミッシュ人形の如き手作りの服装で暮らしていました。

この人形、顔が描かれていません。「個人を引き立てる=虚栄心を煽る」事が禁じられている為とか。まだ共感には程遠い、異次元の社会でした。

**野外コンサート**

7月11日、フェリッサの夫マルクの手で野外コンサート場に。集まる人の手にはバスケットや敷物が。開演前にピクニックで楽しむアメリカンスタイルです。明るい8時開演。満腹後、不協和音で始まった曲は眠気を誘いました。が第3楽章で何と小鳥の大合唱ピーピーピーと曲と一体正に小鳥と人のコンチェルト。野外の醍醐味です。次はベートーベン第9です。クリーブランドオーケストラ、メストのセクシーな指揮姿に魅惑的な夜を堪能しました。

**これぞ正にアメリカ**

菅沼益子

ケベック渡航を終え、引き続き米国オハイオ州のNorthEastオハイオクラブに、3泊のストップオーバーを楽しみました。ステイ先は来日の時に松塚さんがホストしたビル宅。そう、あの小太り(失礼)のシャッフルダンスの上手なご夫妻です。エミーが19歳の時ダンスパーティーで2歳年上のビルと知り会い、結婚。2人の息子3人の孫がいます。

ビルの家は、緑のアプローチの奥に瀟洒な家が並ぶ閑静な郊外にあり、中は明るい玄関、大きな居間には暖炉があり、リビングルームに広いキッチン、窓の外には緑の芝生が広がり、これぞ正にアメリカ。憧れてしまいます。冗談好きなビル、明るいエミー。いつも4人で笑いの絶えない楽しいステイでした。

**オハイオ州ホスト**

山崎恵美子

ナンシーは私のアンバサダーでとても素敵で人間味あふれる美術の先生でした。訪問する前からお互い再会を心待ちにしていました。恥ずかしがり屋の2匹の猫も大歓迎してくれました。ナンシーと漢字で書かれたセンスが壁に飾られており、ちょっぴり感激しました。日本が初めての渡航で、また私が初めての受け入れでお互い記念となるフレンドシップでした。近所に住む、もうリタイアしているポリスマンの人を日曜の朝食に招待して3人で和やかに過ごしました。住まいは自然に囲まれた静かなところでゆったりと時が流れました。写真はその時のお2人です。忙しい朝食時に会話を楽しむ。ちょっとしゃれたもてなしに彼女の人柄が現れていました。ありがとうございます。



2015 FFI World conference バンクーバー大会に出席して

山田 隆

大変素晴らしい場所で大会が開催されたので500人以上が集まりました。日本から17名の参加でした。皆様、Like mindsの持ち主で和気あいの楽しい時間を過ごせました。また、日本から新たに大西さんがボードメンバーに選ばれました。FFIは、財政問題を抱えており、いかに収入を増やすかについての議論がさかんになされていました。各セッションの内容のサマリーはDAY4のアルバムに掲載されています。来年の世界大会はアフリカのモロッコで開催される予定です。



FFI 全体会議風景



FFI パネル前にて（右はPallieさん (Conference director)とFFカイロの方)



収入は減少傾向

柳川 善一

去る7月25日(土)午後、今年の関東ブロック会議が北浦和のカルトスホールにて、合計28名出席のもと開催されました。新しいMt.Fuji山梨クラブから会長・副会長の庄司夫妻、東京クラブは5名、西東京クラブはFFIメンターの石井さんを含め6名、主催した埼玉クラブは関東ブロックのフィールドドレップ(FR)、沼前会長を含め15名が参加。

沼さんから最近のFill the seat PolicyとFRの活動について報告、Next Gen計画についても石井メンターから報告がありました。その後は各クラブから、最近の渡航・受入についての活発な質疑応答の場となりました。特に老舗の大型クラブとして毎年多数の交換事業を行い、羨望の的だった東京クラブが高齢化のせい、会員数も103名となってキャンセルが続いたようで、FFIのカタログに載せる前に、関東ブロック内での相互リクルートが益々必要になって来そうです。来年の日本大会は埼玉クラブの主催で11/12/2016と決まりました。



石井 健二

「清流の街でFFの未来を語ろう」を標語に、9月27・28日、220名が集い(当クラブ参加者10名)、岐阜クラブ主催のもと大会が開催され、現況と課題を共有し、持続発展のための方策を話し合いました。

代表者会では、最近4年間の各クラブの会員数、渡航・受入数のアンケートから、日本も縮小気味であるものの、FFIへの渡航費等支払額は維持していること、積極的な対策を講じている4クラブの報告などがあり、全体会では、NextGenへの日本の取組み、本部スタッフと日本事務局から財政状況、8つの戦略リーダー育成等の講演に続き、17グループに分かれ自由闊達に意見交換しました。



馬籠観光に参加して

松隈 文子

平成27年9月28日、日本大会の翌日、岐阜クラブの方々のご案内の元、青く晴れ渡った空に恵那山を眺め、夏の名残の日差しを感じながら、藤村も歩いたであろう幅4m程の昔の儘の石畳の馬籠宿を歩いてきました。岐阜クラブの方からは姪との関係や、一途な恋を貫く熱い藤村のエピソードをお聞きする事も出来ました。

詩集や「夜明け前」「破戒」等の小説から受けていたイメージとは違う気がしましたが、記念館に展示されていた藤村の写真の前で、「男前ねー!」と女性達の弾むような華やかな声を次々と耳にした時、広がる大きな空と美しいけれども小さな馬籠の風景を前に納得がいったような旅になりました。



顧問 佐原泰子

今年二回目のオリエンテーションのためのお茶会を、担当役員の竹田会員邸にて8月29日(土)の午後、古いベテラン会員4人を中心に男性の稲富さん、女性の北川、高見さんの新しい会員を囲んで開催しました。内容はホームページに記載されている”アンバサダーのしおり” ”受け入れホストのしおり” ”交換プログラム” ”渡航・受け入れ記録” を参考にして内容を説明し、また旧会員の経験談などを披露して頂きながら 和やかな雰囲気の中 無事終了いたしました。会則や細則は入会と同時に配布してあるので 今日受け入れ・渡航の際の具体的なルールや注意事項の説明です。そしてこの毎年の交換活動を通して、よく混同される普通の旅行社の主催する海外旅行では決して経験できない、全く質の違う素晴らしい交流ができることなどをお話しました。



オリエンテーションに参加して 北川賀子

新人会員のオリエンテーションを竹田さんのお宅で開催して頂きました。佐原さんから資料を頂き、内容のご説明や活動についてのお話を伺うことが出来ました。事務的ではなく素敵なお宅でお茶やお菓子を頂きながらのリラックスした楽しい雰囲気でのオリエンテーションでした。ベテランの会員の皆様は海外のご経験や受け入れなどFFならではの素晴らしい交流のお話をいろいろ伺えてとても良かったです。皆様お忙しい中ありがとうございます。



今村佐知子

東京を違う視点から見てみたいとの思いから辿り着いたのが東京都港湾局の主催する視察船“新東京丸”、11月19日秋晴れの下、定員60人満席の中私達は13人で参加しました。船は竹芝ターミナルを出航後港湾局のガイド付きで1時間半東京港を巡ります。ガイドさんは東京港について幅広い角度からユーモア溢れる話術で説明し私達を飽きさせません。夢の島を作る為の海のスペースが限界にきている事を知り、ゴミの減量化の必要性をひしと感じました。でも反面、下水道の完備で海が綺麗になり魚が戻ってきたことは嬉しい現実でした。午後はお台場のソニーエクスプローラー館へ、科学を楽しく体験できるお薦めのスポットです。臨海副都心を満喫した一日でした。



2016年度予定

- 1月23日(土)
2016年度FF西東京クラブ総会
ホテル ザ・エルシー町田 龍皇
11:30~14:30
- 4月5日(火)~4月12日(火)
ドイツ・ハノーファークラブ受入
西東京クラブ受入後新潟クラブ2週目受入
ED 山崎 恵美子 SUB ED 鳥居 典子
- 5月末~7月初め(日程未定)
FF関東ブロック会議 西東京クラブ主催
- 6月末 会報第23号発行
- 9月16日(金)~19日(月)
FF世界大会 アフリカ・モロッコ
- 11月頃(日程未定)
タイ・バンコククラブ渡航
ED 八塚 住子 SUB ED 菅沼 益子
- 11月12日(土)
FF日本大会 埼玉クラブ主催
ホテルブリランテ武蔵野
- 12月会報第24号発行

新人プロフィール——戸ヶ崎正次・満里

八塚さんからの紹介で入会しました戸ヶ崎です。趣味は色々広げてきましたが一番大事にしているのは国際交流です。入会早々、来年のドイツ受入れのイベント係を仰せつかりました。ドイツの皆さんに楽しんでいただけるようがんばります。

みなさんよろしくお祈りします(正次)。

4月のブラジルの受け入れの際にはパーティやランチをご一緒して楽しませていただきました。もともと多言語や着物やお茶もやっているのをそれらを生かして、いろいろな国の方とお会いできるのを楽しみにしています。

どうぞよろしくお祈りいたします(満里)。



編集後記

会報17号から22号まで、三年間六冊の企画・構成・編集を担当させていただきましたが、今号でお役目満了となり、事務局長だった山本文会員に無事バトンタッチが出来ました。編集とレイアウトの実務を多忙な職務の暇を縫って作成している中川会員のデザイン・センスは、もちろん大好評につき継続で益々磨きがかかります。三年間貴重な原稿や写真を、期限通りに出稿していただいた会員・ゲストの皆様へ、厚くお礼申し上げます。

本部FFIの体制が落ち着くまで、西東京クラブの外側は騒々しいでしょうが、クラブ内はこれまでと同じく平穏無事、しばらくは小生もお手伝いを指示されていますので、どうぞ山本、中川ご両名共々、今後ともよろしくご協力ください。

(椰川善一)

秋は結婚式の多い季節です。私は今友人の結婚式の為、金沢に向かっている例によってデザイン担当の中川です。

今回の目玉はカナダ・ケベックです！慌てん坊のサンタクロースがやってきたようで、一足早いクリスマスを満喫できたと思います。また、岐阜で行われた日本大会など、国内でのイベントも多くの方が参加して楽しめたと思います。

会報作成に多大なるご尽力を注いでいただいた椰川さんが今会報を持って引き継ぎとのこと、大変寂しく思います。会報作成は椰川さんメインで作成しておりましたので、今後は不安ですが頑張りたいと思います。椰川さんお疲れさまでした！いつかひっそりと‘コラムなぎーのぼやき’を作ることを画策しております。

私は今、二人の人から早く結婚してくれとせがまれていて大変です。...

... 親父とおふくろです。...

(中川貴文)

発行日:平成27年12月 第22号
発行者:ザ・フレンドシップフォース・西東京

川崎市宮前区宮前平3-12-8

Tel&Fax 044-852-5231

ホームページ
担当:西村千織

<http://ffw-tokyo.org/wp/>